

第 27 回神奈川看護学会 実施報告

1. 開催概要

テーマ「未来創造  元気をシェアする KANAGAWA 看護」

<趣旨>

人生 100 年時代。高齢化の進展や医療技術の高度化・専門化等が進む中、地域医療構想の実現に向けた病床の機能分化・連携も加速しています。こうした社会の変化に伴い、すべての年代が一丸となって「元気な社会」を築くためには、人々の生涯にわたり健康な生活の実現に貢献することを使命とする看護職員の役割は一層高まっています。

しかし、神奈川県就業看護職員数は増えているものの、依然として必要看護職員数には達しておらず、離職率は全国平均を上回っています。特に、離職理由の多くが「本人の心身の不良」であり、多忙な業務等に伴うストレスや疲労がその一因と考えられます。

少子高齢化が進む中、看護職が持つ専門的知識と技術を生涯にわたり活かすためには、自らが心身ともに健康であり続ける事が不可欠です。そのため、効果的な健康管理や職場環境の改善を進め、看護職のウェルビーイングを支援することが求められています。人々の健康を支える看護職自身の健康保持・増進は、組織の活性化を促し、看護の質の向上や組織の価値向上といった経営的側面(健康経営)にも直結します。

看護職自身が心身ともに健康であり、互いに「元気」を分かち合うことが、ひいては看護職と関わる人々や社会の健康につながる。—そんな未来を実現するために、第 27 回神奈川看護学会は、「ウェルビーイング」や「健康経営」をキーワードに、新たなアプローチを参加者と共有します。

■日 時 2025 年 11 月 29 日 (土) 10:00~16:00

■会 場 神奈川県総合医療会館 (横浜市中区富士見町 3-1)



主 催 公益社団法人神奈川県看護協会

事業担当：研修課

◇プログラム

◆研究報告（口演・示説）／ 実践報告（口演・示説）

◆講演会 「看護職の元気創造～幸福学からひも解く幸せのメカニズム～」(80分)

<講師> 秋山 美紀 氏

(学校法人武蔵野大学ウエルビーイング学部ウエルビーイング学科 学科長 教授)

◆トークライブ 「元気を届けるナースの物語」(60分)

<登壇者> ① 加倉井さおり 氏

(株式会社ウエルネスライフサポート研究所 代表取締役／保健師)

② 遠山 貴史 氏

(株式会社 andNURSING. 代表取締役／訪問看護)

◆ランチョンセミナー 「実践できる健康経営-ウォーターヘルスケアという新習慣-」 (50分)

(協賛 株式会社日本トリム)

◆交流会 (各 90分)

① 「施設の垣根を越えて、地域で取り組む人材育成！

－かながわ地域看護師の取り組みの実際（いま）と未来について－

発信者：渡邊 輝子 氏

(社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院 看護部長)

② かながわ心不全＊看護 CAFE

「心不全看護の輪を広げよう～いつでも・どこでも心不全ケア～」

発信者：三橋 啓太 氏

(国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 慢性疾患看護専門看護師)

◆看護研究なんでも相談コーナー・看護研究ミニ支援コーナー

講師：下村 晃子 氏





(学校法人松蔭学園松蔭大学 看護学部 教授 慢性疾患看護専門看護師)

◆企業展示：15社／16ブース

◆学会集録広告：8団体／12枠

会場スケジュール

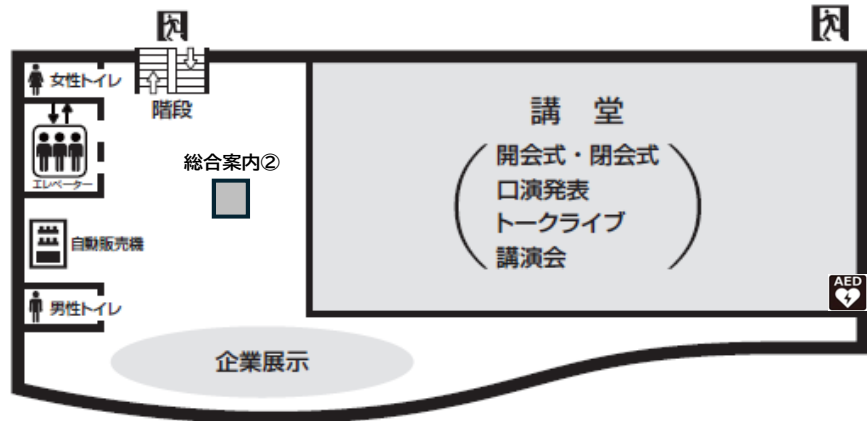
11月29日（土） 9:30～開場・受付 10:00～開会式

| | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 |
|--|---|---|---|--|---|--|-------|
| 7F 講堂 | 9:50～ 10:00 開会式 口演発表 [第1群] 老年・ 慢性期看護 No. 1-2(2題) | 11:00-12:00 トークライブ 「元気を届ける ナースの物語」 登壇者 加倉井さおり 遠山 貴史 | ※1 参加者の投票により、学会MVP を選出します。上位3題には賞 状と副賞を進呈します。  | 13:35-14:20 口演発表 [第2群] 地域包括ケア・ 外来看護 No. 3-6(4題) | 14:30-15:50 講演会 「看護職の元気創造 -幸福学からひも解く 幸せのメカニズム-」 講師：秋山 美紀 | 15:55 閉 会 式 M V P 発 表  | |
| | ※1 『投票で決まる！学会MVP』 投票 受付中 → 15:00 投票受付終了 | | | | | | |
| ロビー 9:30-16:00 企業展示 | | | | | | | |
| 6F 第1研修室 | 10:20-10:55 示説発表 [第6群] 倫理 No. 19-21(3題) | 11:05-12:00 示説発表 [第7群] 実態・意識調査 No. 22-26(5題) | | 13:35-14:20 示説発表 [第8群] 高齢者看護 No. 27-30(4題) | 15:30 ポスター掲示 | | |
| | 10:20-10:55 示説発表 [第9群] 看護実践 No. 31-33(3題) | 11:05-12:00 示説発表 [第10群] チーム医療・ 多職種連携 No. 34-38(5題) | ※2 自由な意見や感想を、付箋に記 入してポスターに貼ってくださ い。研究者の励みになるような、 熱いコメントをお待ちしていま す！  | 13:35-14:20 示説発表 [第11群] 教育・コンサル テーション No. 39-42(4題) | 15:30 ポスター掲示 | | |
| ※1 『投票で決まる！学会MVP』 投票 受付中 → 15:00投票受付終了 | | | | | | | |
| ※2 示説発表 フィードバック企画『付箋でつながる元気の輪』 | | | | | | | |
| 情報 コー ナー | 10:15-11:45 看護研究 なんでも相談 コーナー | | | 14:00-15:30 看護研究 なんでも相談 コーナー | | | |
| 5F ナ ー ス セ ン タ ー 研 修 室 | 10:20-10:55 口演発表 [第3群] 看護実践 No. 7-9(3題) | 11:05-12:00 口演発表 [第4群] 人材育成・ 看護管理 No. 10-14(5題) | 12:30-13:20 ランチョンセミナー 「実践できる 健康経営 -ウオーター ヘルスケア という新習慣-」 講師：浅野彰元 協賛：株式会社日本トリム | 13:35-14:20 口演発表 [第5群] 看護教育 No. 15-18(4題) | | | |
| | ※1 『投票で決まる！学会MVP』 投票 受付中 → 15:00投票受付終了 | | | | | | |
| 会 議 室 1 | 交流会① 10:00-11:30 ※3 「施設の垣根を越えて、 地域で取り組む人材育成！ -かながわ地域看護師の取 り組みの実際(いま)と 未来について-」 | | 12:00-13:00 看護研究 ミニ支援講座 開始時刻までに、 直接ご来場ください | | 交流会② 13:30-15:00 かながわ心不全*看護CAFE 「心不全看護の輪を広げよう ~いつでも・どこでも 心不全ケア~」  | | |
| 1F会議室AB/ ロビー | 受付①②③④・総合案内・企業展示 (9:30-16:00) | | | | | | |

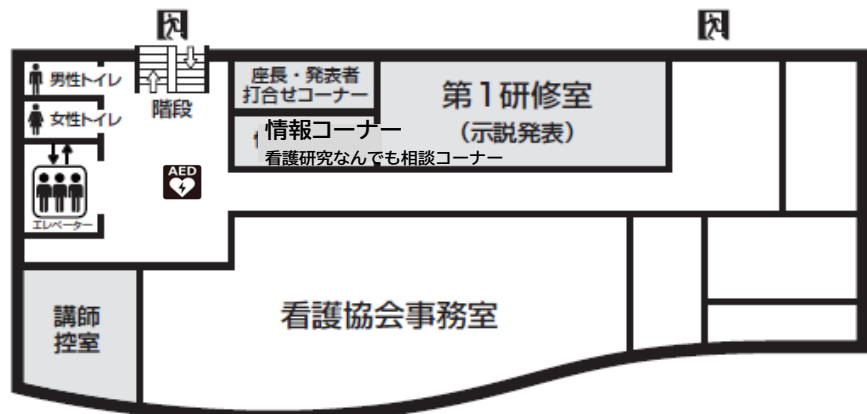
 「神奈川県看護協会から発信！」 → 学会エリア内では、神奈川県看護協会の事業や取り組みをポスター展示を通して紹介しています。🍁

会場平面図

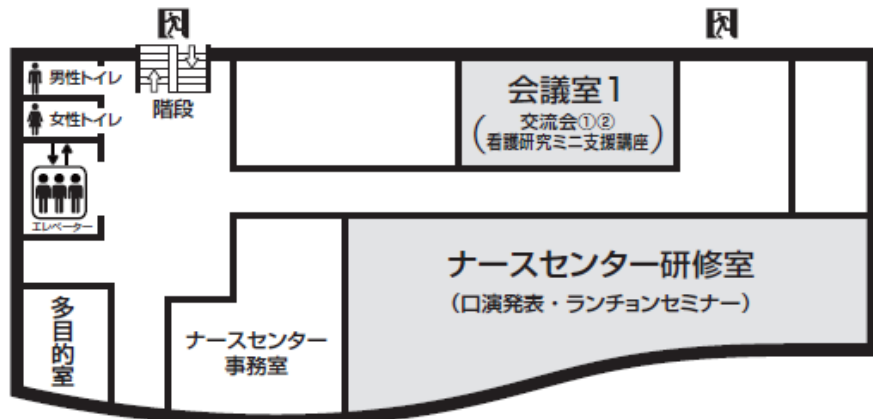
7階



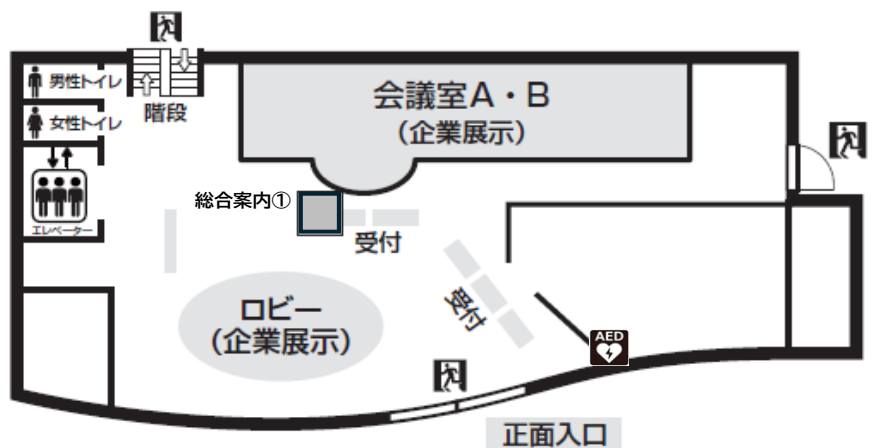
6階



5階



1階



2. 企画内容および取り組み

第 27 回神奈川看護学会は、協会全体の財政状況が厳しい中での開催となった。例年使用していた大規模会場から、よりコンパクトな会場へと変更する必要が生じたが、単に規模を縮小するだけではなく、「限られた環境の中でも、参加者が主体的に学び、交流し、元気を持ち帰ることができる学会」を目指し、プログラム全体の再構成を行った。会場変更に伴い、動線の確保、会場使用の検討、座席数の調整、使用物品の見直しなど、運営上の課題が予想された。事前に複数回のレイアウト検討を行い、スタッフ配置や案内表示の工夫を重ねることで、参加者の負担を可能な限り軽減するよう努めた。

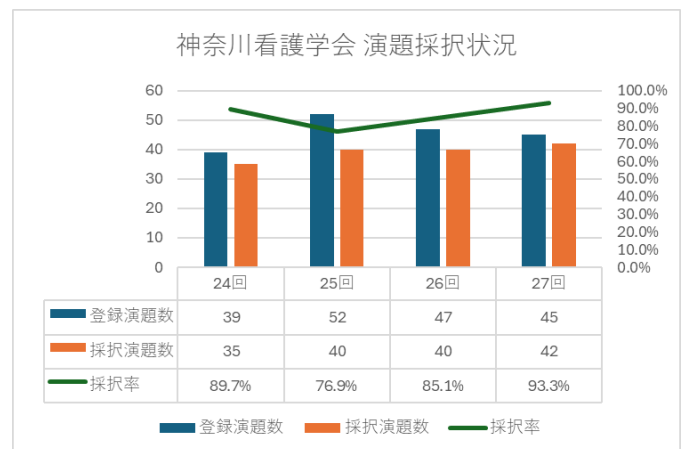
1) 学会テーマの刷新

第 27 回のテーマは、ウェルビーイングの視点を取り入れ、「未来創造➤元気をシェアする KANAGAWA 看護」とした。テーマ設定にあたっては、看護職が日々の業務の中で疲弊しやすい現状を踏まえ、「看護職自身が心身ともに健康であり、互いに「元気」を分かち合うことが、ひいては看護職と関わる人々や社会の健康につながる」という願いを込めた。また、講演会やトークライブ、交流会などの企画と連動させることで、学会全体として統一感のある構成とした。テーマに込めた「看護職同士が元気を分かち合う場」という意図が参加者の雰囲気にも反映され、アットホームで温かい学会となった。

2) 研究報告に加え「実践報告」枠を新設

第 27 回の大きな特徴として、従来の研究報告に加え、新たに「実践報告」枠を設けた点が挙げられる。県内の看護職からは、「研究としてまとめるには時間的・人的な余裕がないが、日々の実践の工夫や成果を共有したい」という声が以前から寄せられていた。これを受け、研究活動の裾野を広げるとともに、現場の知恵や取り組みを発信できる場を提供することを目的として、実践報告枠を新設した。その結果、演題登録数の減少が懸念されていたものの、前年度並みの件数を維持し、不採択は 1 演題のみとなった。

参加者からは「実践報告発表の機会が与えられたことで、ハードルが下がり誰もが取り組みやすくなった」といった声が寄せられ、学会としての多様性が高まった。実践報告の導入により、若手看護職や中堅層の参加意欲の向上が期待され、今後の研究文化の醸成にもつながる取り組みとなった。



| | 演題登録時 | 発表演題 |
|------|-------|------|
| 研究報告 | 16題 | 16題 |
| 実践報告 | 29題 | 26題 |
| 計 | 45題 | 42題 |

3) 参加型企画「学会 MVP！」の新設

これまでの看護研究奨励賞に加え、参加者の投票で決まる「学会 MVP！」を新設した。従来の奨励賞は選考委員による評価を中心としていたが、第 27 回は「参加者が主体的に学会に関わる仕組み」をつくることを目的に、投票制を導入した。「学会 MVP！」は研究・実践報告の区別なく、参加者が「最も印象に残った」「面白かった」「伝わりやすかった」と感じた演題に投票する形式とした。その結果、99 名の投票により 3 題が選出され、閉会式内で授与式を実施した。また、講演会をプログラムの最後に配置

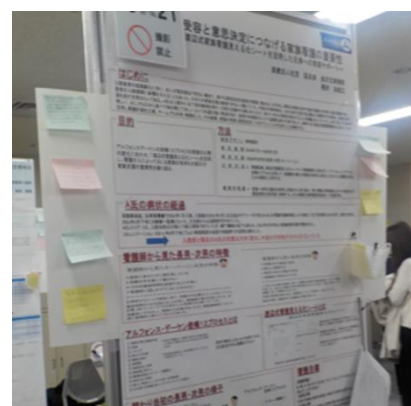
することで、閉会式への参加を自然に促す流れをつくり、例年より閉会式の参加者が増加した。参加者からは「自分の一票が反映されるのが楽しかった」「投票を通して良いと思ったものを伝えられて嬉しかった」「学会が一体感を持って進んでいる感じがした」といった好意的な意見が寄せられ、参加者の声からも、「学会 MVP！」が「聞くだけの学会」から「自分も学会をつくる側になる体験」へとつながったことがうかがえた。

参加者の投票で決まる「学会 MVP！」受賞者

| MVP 賞 | 演 題 | 受賞者(○発表者) | 所属施設 |
|----------------|---|--------------------------------|------------------------------|
| ★ ベストプレゼン賞 | 病棟と手術室の連携強化による業務改善～病棟看護師の時間的リソース確保を目指して～ | ○石田 拓也 芳賀 弘幸 進藤 厚子 稲村ほづみ | 平塚市民病院 |
| ★ 元気シェアリング賞 | 子育て中のがん患者が子どもへ病状を伝える困難への支援 | ○小池 春奈 | 日本医科大学 日本医科大学武蔵小杉病院 |
| ★ KANAGAWA 観客賞 | 1年目の看護師が経験する困難の実態～新人看護師とベテラン看護師の1年目の経験から～ | ○山口 伸子 山口沙里奈 山口江里奈 | 法政大学大学院 社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 |

4) ポスター発表へのポジティブフィードバック企画「付箋でつなぐ元気の輪」

ポスター発表へのポジティブフィードバック企画「付箋でつなぐ元気の輪」では、示説発表会場において、参加者がポスターにポジティブメッセージを貼付け、研究者へ直接フィードバックできる仕組みを導入した。結果として計 77 枚の付箋が集まり、研究者はそれらを持ち帰り、今後の研究活動の励みとして活用することができた。この取り組みは、研究者にとってのモチベーション向上だけでなく、参加者同士の交流や対話を促す効果もあり、会場全体が温かい雰囲気にも包まれる活気ある企画となった。特に研究者からは「温かいコメントが励みになった」「付箋に記されていたメッセージに元気をもらった」といった声が寄せられ、研究文化の醸成にも大きく寄与した。



5) 講演会

| | | |
|----------|-------|--------|
| * 講演会参加者 | 7階 講堂 | ※資料配布数 |
| | 219 | |



講演会については、参加者から「学びが多かった」「自分自身を振り返る機会になった」「前向きな気持ちになれた」といった意見が多く寄せられ、全体として非常に高い評価を得た。特に、ウェルビーイングやセルフコンパッションに関する内容は、看護職としての働き方や心の持ち方を見つめ直す契機となったとの声が多く、参加者の関心の高さがうかがえた。また、「自分に置き換えて考えることができた」「今後も長く働き続けるためのヒントを得た」など、実践的な学びにつながったという意見も多く、講演内容が日常業務に直結する形で受け止められていた。講師の語り口や構成についても「わかりやすかった」「印象に残った」との評価が多く、参加者の満足度は総じて高かった。

6) トークライブの初開催



第 27 回の新規企画として、看護職のウェルビーイングをテーマにしたトークライブを初めて実施した。講演形式とは異なり、登壇者 2 名が対話形式で自身の経験や価値観を語ることで、参加者にとって親しみやすく、共感を呼ぶ内容となった。参加者からは「気軽に聞けて、でも深い内容だった」「自分の働き方を見直すきっかけになった」「看護職としての元気をもらえた」といった声が多く寄せられ、学会の新たな魅力として高く評価された。また、ウェルビーイングというテーマが、学会全体の雰囲気づくりにも寄与し、参加者同士の対話が自然と生まれるきっかけにもなった。

7) 交流会の実施

発信者主体で内容を構成する交流会を 2 企画実施した。いずれも事務局からの呼びかけに応じて参加いただいたものである。

| * 交流会 | 交流会①(会議室1) | 交流会②(会議室1) |
|-------|------------|------------|
| | 37 | 30 |

(1) 施設の垣根を越えて、地域で取り組む人材育成！-かながわ地域看護師の取り組みの実際(いま)と未来について-



かながわ地域看護師をテーマとした交流会では、「地域で看護師の成長をサポートする取り組みが興味深かった」「地域全体で看護師を育てる仕組みが素晴らしい」といった意見が多く、参加者の関心の高さがうかがえた。特に、「高齢化が進む中で地域看護師の役割に関心を持った」「自分の看護を見つめ直す機会になった」といった声が寄せられ、地域における看護の未来を考える契機

となった。また、「地域に視点を向けることの重要性を再認識した」「神奈川で働く看護師の定着につながる取り組みだと感じた」など、地域全体の看護力向上に対する期待も示された。交流会を通じて、参加者同士が地域看護の価値を共有し、今後の活動への意欲を高める場となった。

(2) かながわ心不全*看護 CAFÉ'「心不全看護の輪を広げよう～いつでも・どこでも心不全ケア～」

心不全をテーマとした交流会では、専門的な知識に苦手意識を持つ参加者も多かったが、「クリニック医師の説明がわかりやすかった」「最新のガイドラインを知ることができた」といった声が寄せられ、理解を深める機会として高く評価された。循環器領域に従事する参加者からは「業務に直結する内容で大変参考になった」との意見があり、実践に活かせる学びが得られたことがうかがえた。また、「心不全に興味のある人が多く、県内でネットワークを広げる必要性を感じた」との声もあり、専門領域における連携強化の重要性が共有された。全体として、心不全に関する知識の整理と、今後の実践につながる視点を得られる有意義な交流の場となった。

8) 看護研究支援コーナー（なんでも相談コーナー、ミニ支援講座）

| | | |
|---------------|--------------|--------------------|
| * 看護研究コーナー参加者 | ミニ支援講座(会議室1) | なんでも相談コーナー(情報コーナー) |
| | 9 | 4 |

(1) 看護研究ミニ支援講座

ミニ支援講座では、研究の基礎や実践に役立つポイントを短時間で学べるよう、「看護研究入門編 ― 研究疑問から研究計画へ」をテーマに実施した。参加者からは「とても分かりやすかった」との声が多く寄せられ、特に「研究の流れと各プロセス」や「倫理的配慮」に関する説明が高く評価された。これらの内容は、日々の実践の中で研究に取り組む際の具体的な手がかりとなり、参加者の学びを深める良い機会となっていた。

(2) 看護研究なんでも相談コーナー（事前申込2/当日申込2）

看護研究に関する疑問や不安を気軽に相談できる場として、例年どおり「看護研究なんでも相談コーナー」を設置した。本コーナーには、研究として成り立つ内容かどうかの判断に迷っている、研究を進めたいが方向性に不安がある、結果のまとめ方に悩んでいるなど、参加者それぞれの進捗に応じた多様な相談が寄せられた。個別に助言を受けられる場として一定の役割を果たしていたと考えられ、研究活動を進めるうえでの支援の一助となった。

9) ランチョンセミナー

| | |
|----------------|---------|
| * ランチョンセミナー参加者 | 5階NC研修室 |
| | 167 |

※キャンセル待ち入場者含む（定員 180 名）

ランチョンセミナーでは、当初より入場待機列の形成が課題となっていた。会場が狭く、階段付近まで列が伸びる可能性が懸念されていたため、誘導担当者を配置して対応を図ったが、当日はセミナー参加者が集中し、十分に待機列を整理しきれない状況が発生した。その結果、一部で混雑が生じた。また、企業担当者が会場運営に不慣れであったことから、準備が予定より遅れる場面もあった。ただし、事故等はなく、セミナー自体は予定どおり開始できた点は評価できる。次年度に向けては、待機列の整理方法や誘導體制の強化、企業担当者との事前調整など、入場時の運営改善が必要である。

10) 運営体制

第 26 回までは外部協力委員を配置し、日当および交通費を支払う形で運営を行っていた。しかし、財政状況を踏まえ、第 27 回では外部協力委員の依頼を取りやめ、その代替として学生ボランティアの人数を増やす体制へ移行した。このように、第 27 回では総運営人数を見直しつつ、外部協力委員から学生ボランティアへのシフトを図ることで、財政負担の軽減を図りながら必要な運営体制を確保することができた。

◇運営体制（人）

| | 第27回 | 第26回 |
|-----------|------|------|
| 外部協力委員 | 0 | 13 |
| 学生ボランティア | 12 | 5 |
| 音響・映像会社 | 2 | 7 |
| 職員・学会運営委員 | 47 | 56 |
| 合計 | 61 | 81 |

また、これまで音響・映像会社へ委託していた口演発表データの受け渡しを、PDF をメール添付で事前提出いただく方式へ変更した。事務局で各会場 PC へデータを配置したため作業負担は増えたが、前日までに全データを揃えることができた。一方で、データの差し替え漏れが発生したものの、発表者の柔

軟な対応により進行への影響は最小限にとどまった。今回の経験を踏まえ、次年度はより簡便で確実なデータ管理方法の検討が必要である。

3. 看護研究奨励賞

神奈川看護学会では、看護研究を奨励・支援することを目的として、平成14年度から看護研究奨励賞制度を設けている。第27回は看護研究奨励賞選考会議にて、研究報告16題の中から看護研究奨励賞1題を決定した。(特別奨励賞は該当なし)

| 受賞名 | 演題番号 | 発表者 | 共同研究者 | 施設名 | 演題名 |
|-----|------|------|--|--------------------------------------|--|
| 奨励賞 | 16 | 田中 伸 | 佐々木 仁美 高木 睦子 南部 恭子 西 洋子 佐藤 真樹子 | 昭和医科大学大学院保健 医療学研究科 昭和医科大学藤が丘病院 | 看護学実習指導者育成に向けた現状分析 第一報 ～役割自己評価と学習ニーズの関連性における視点～ |

4. 参加状況

会場規模は前年度より縮小したものの、事前参加申込は284名と前年度の約75%を確保した。一部の会場では混雑がみられたが、全体の収容規模に照らすと参加者数は適正範囲に収まっており、運営上の大きな支障は生じなかった。また、発表登録数も前年度並みを維持し、県内各地域から幅広い層の参加が得られたことから、会場変更によるアクセス面の不利や参加意欲への影響は最小限であったと考えられる。

【事前参加申込者の背景】

平均年齢は48.0歳で、最年少22歳から最年長71歳まで幅広い年代層が参加した。会員種別では、有効会員が91.3%を占め、会員の積極的な参画がみられた。年代別では50歳代が最も多く(37.4%)、次いで40歳代(22.8%)が続いた。一方で30歳未満は8.7%と若手層は

第27回 神奈川看護学会参加者数 比較

※第25回より、事前参加申込者を参加者とする

| 参加者種別 | 参加者人数 | | | |
|--|-------|------|------|------|
| | 第27回 | 第26回 | 第25回 | 第24回 |
| 事前申込(発表者) | 42 | 40 | 39 | 32 |
| 事前申込(会員) <small>第27回 交流会7-キック6名含</small> | 195 | 280 | 246 | 192 |
| 事前申込(非会員) | 18 | 21 | 14 | 20 |
| 事前申込(学生) | 29 | 36 | 30 | 33 |
| ①事前参加申込者 計 | 284 | 377 | 329 | 277 |
| 当日受付(発表者) | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 当日受付(会員) | 47 | 64 | 79 | 45 |
| 当日受付(非会員) | 6 | 10 | 8 | 4 |
| 当日受付(学生) | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 発表者家族 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ②当日参加申込者 計 | 53 | 76 | 89 | 52 |
| ①+② | 337 | 453 | 418 | 329 |
| ※第26回 発表者40名のうち、当日1名欠席(演題取り下げ) | | | | |
| ※関係者は当日来場した人数 | | | | |
| 来賓(後援団体) | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 招待(理事) | 14 | 14 | 17 | 12 |
| 座長 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 学会運営委員 | 10 | 8 | 10 | 10 |
| 協力委員・セーラー | 2 | 20 | 20 | 26 |
| 学生ボランティア | 11 | 5 | 5 | 0 |
| 講師(講1・ランチョン1・研究1・トーク2) | 5 | 10 | 8 | 7 |
| 本部・協会職員 | 37 | 47 | 49 | 48 |
| 共同研究者等(委員会・ST) | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 職員(一般参加) | 0 | 3 | 6 | 5 |
| ③関係者 計 | 87 | 115 | 123 | 116 |
| 合計(①+②+③) | 424 | 568 | 541 | 445 |

* その他の参加 協賛企業 15社(ランチョン講師含む)

限定的であったが、30～40歳未満は前年度より増加しており、中堅層の参加が広がったことがうかがえる。地域別では、横浜市（32.5%）が最多で、川崎市（18.0%）、湘南地域（13.6%）が続いた。県央・相模原・小田原地域など県内各地域からバランスよく参加があり、他県からの参加もわずかながら確認された。

【発表者の背景】

演題登録は45題で、そのうち42題が発表に至った。発表者の平均年齢は41.6歳で、最年少21歳から最年長63歳まで、参加者同様に幅広い年代層が登壇した。年代別では40～50歳未満が最も多く（35.7%）、次いで30歳未満（23.8%）、50～60歳未満（19.1%）が続いた。特に50～60歳未満は前年度より増加しており、中堅からベテラン層の発表意欲が高まっていることが示唆された。第27回では、従来の研究報告に加えて実践報告の枠を新たに設けたことにより、明確な数値上の変化は確認されていないものの、これまで研究発表にハードルを感じていた層の参加を促す一因となった可能性がある。特に、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、看護専門学校など、病院以外の多様な施設種別からの発表がみられた点については、数値的な因果関係は示せないものの、実践報告枠の導入がこうした施設からの参加を後押しした可能性がある。地域別では、横浜市（33.3%）が最多で、川崎市（21.4%）、湘南・小田原・県央地域（各11.9%）が続いた。県内の幅広い看護領域からの参画が確認され、研究・実践の双方を共有する場として学会の機能が強化されたといえる。

【参加状況まとめ】

本学会は、会場規模の縮小という条件下にありながら、参加者337名、演題登録45題と前年度に近い規模を維持した。参加者・発表者ともに年代や地域、施設種別が多様であり、県内の看護職が幅広く参画する場として機能していたことがうかがえる。また、一部会場で混雑はみられたものの、全体としては大きな支障なく運営され、会場変更による影響は限定的であった。これらの結果から、本学会が引き続き県内看護職の学びと交流の場として重要な役割を果たしていることが確認された。

5. 参加者アンケート結果

全体として、会場の狭さに関する指摘はあったものの、新規企画への評価や学会の雰囲気に対する肯定的な意見が多く、参加者の満足度は概ね高かった（リマインドメール送付により回答率35.1%）。

| ◆ 良かった点として挙げた意見 | ◆ 改善点として挙げた意見 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 会場がコンパクトで移動が楽だった アットホームで参加しやすい雰囲気だった 新規企画が多く、協会の柔軟性や挑戦する姿勢を感じた トークライブが新鮮で良かった MVP投票が楽しく、参加意欲につながった 実践報告が増え、現場に役立つ内容が多かった スタッフの案内が丁寧で安心感があった テーマがわかりやすく、全体の雰囲気も明るかった | <ul style="list-style-type: none"> ポスター会場が狭く、混雑を感じた 一部の企画で座席数が不足した 会場の動線がわかりにくい場面があった 休憩スペースが少なかった 音響が聞き取りにくい場面があった 会場内の温度管理が不十分だった |

6. 収支報告

会場をパシフィコ横浜から神奈川県総合医療会館へ変更したことにより、会場使用料および備品使用料が大幅に削減された。さらに、映像業務委託の内容を見直したことで、口演発表におけるパワーポイント当日受付、会場内スクリーン配信のためのオペレーター配置、機材レンタル、委託先スタッフの宿泊費等が不要となり、会場使用料と合わせて前年度比で総経費は約 65%減少した。また、参加者数が前年度の約 75%を維持したことに加え、出展企業数および集録への広告掲載数が前年度と同程度であったことから、収入を確保でき、支出は収入の範囲内に収まった。これらは本年度の大きな成果といえる。2026 年度は集録の PDF 化により印刷部数を最小限とする予定であり、引き続き収支が赤字とならないよう運営を継続していきたい。

7. 総括

第 27 回は財政的制約の中での開催となったが、会場規模の縮小に伴う課題を最小限に抑えつつ、新規企画の導入により参加者の満足度向上を図ることができた。特に、参加型の「学会 MVP」や「付箋でつながる元気の輪」、トークライブ、交流会など、従来にない取り組みが学会の活性化につながった。また、実践報告枠の新設により、研究だけでなく現場の取り組みを共有する場が広がり、県内看護職の学びの機会をより多様に提供できた。来年度に向けては、ポスター会場のレイアウト改善や動線の見直しなど、アンケート結果を踏まえた環境整備を検討していく。引き続き、県内看護職の学びと交流の場として、より魅力ある学会運営を目指していく。

8. 次年度への課題

- 学会集録に関するコスト削減と利便性向上を図る。
- 会場環境の改善（空調、動線、安全管理、休憩スペース）を優先課題とする。
- 新企画は継続しつつ、参加者がより参加しやすい仕組みを検討する。
- ランチョンセミナーの入場整理方法を見直し、安全確保を強化する。

以上